

◆ 達成すべき基準値の試算  
(舞鶴市の図書館システム全体)

舞鶴市(人口7.8万人)の場合  
全市での資料と職員と施設の基準値

[延床面積]

人口 6,900人	未満1,080㎡を最低とし,
人口 18,100人	までは1人につき0.05㎡
人口 46,300人	までは1人につき0.05㎡
人口152,200人	までは1人につき0.03㎡

→ [延床面積] 4,000㎡ (市民交流部分を除く)  
5.13㎡/市民100人

$$1,080 + ((18,100 - 6,900) \times 0.05) + ((46,300 - 18,100) \times 0.05) + ((78,000 - 46,300) \times 0.03) = 1,080 + 560 + 1,410 + 951 = 4,001$$

☆2025年人口73,818人試算では 3876㎡ 5.25㎡/市民100人  
☆2035年人口63,428人試算では 3564㎡ 5.62㎡/市民100人

[蔵書冊数]

人口 6,900人	未満67,270冊を最低とし,
人口 18,100人	までは1人につき3.6冊
人口 46,300人	までは1人につき4.8冊
人口152,200人	までは1人につき3.9冊

→ [蔵書冊数] 36.7万冊  
4.71冊/市民1人

(近年先進事例と比べると小さい数字となっている。)

$$67,270 + ((18,100 - 6,900) \times 3.6) + ((46,300 - 18,100) \times 4.8) + ((78,000 - 46,300) \times 3.9) = 67,270 + 40,320 + 135,360 + 123,630 = 366,580$$

☆2025年人口73,818人試算では 350,270冊 4.75冊/市民1人  
☆2035年人口63,428人試算では 309,749冊 4.88冊/市民1人

[開架冊数]

人口 6,900人	未満48,906冊を最低とし,
人口 18,100人	までは1人につき2.69冊
人口 46,300人	までは1人につき2.51冊
人口152,200人	までは1人につき1.67冊

→ [開架冊数] 20.3万冊

近年、公開書庫/準開架を含めて  
公開30万冊が推奨される事も多い。

$$48,906 + ((18,100 - 6,900) \times 2.69) + ((46,300 - 18,100) \times 2.51) + ((78,000 - 46,300) \times 1.67) = 48,906 + 30,128 + 70,782 + 52,939 = 202,755$$

☆2025年人口73,818人試算では 195,771冊  
☆2035年人口63,428人試算では 178,420冊

[資料費]

人口 6,900人	未満1,000万円を最低とし,
人口 18,100人	までは1人につき796円
人口 46,300人	までは1人につき442円
人口152,200人	までは1人につき466円

→ [資料費] 4600万円/年間  
590円/市民1人

$$10,000,000 + ((18,100 - 6,900) \times 796) + ((46,300 - 18,100) \times 442) + ((78,000 - 46,300) \times 466) = 10,000,000 + 8,915,200 + 12,464,400 + 14,772,200 = 46,151,800$$

☆2025年人口73,818人試算では 44,202,988円 599円/市民1人  
☆2035年人口63,428人試算では 39,361,248円 621円/市民1人

[年間増加冊数]

人口 6,900人	未満5,574冊を最低とし,
人口 18,100人	までは1人につき0.32冊
人口 46,300人	までは1人につき0.30冊
人口152,200人	までは1人につき0.24冊

→ [年間増加冊数] 25,000冊/年間

$$5,574 + ((18,100 - 6,900) \times 0.32) + ((46,300 - 18,100) \times 0.30) + ((78,000 - 46,300) \times 0.24) = 5,574 + 3,584 + 8,460 + 7,608 = 25,226$$

☆2025年人口73,818人試算では 24,222冊/年  
☆2035年人口63,428人試算では 21,729冊/年

[職員数]

人口 6,900人	未満6人を最低とし,
人口 18,100人	までは100人につき0.025人
人口 46,300人	までは100人につき0.043人
人口152,200人	までは100人につき0.041人

→ [職員数] 34人  
市民2.3千人/専任職員1人

$$6 + ((18,100 - 6,900) \times 0.025/100) + ((46,300 - 18,100) \times 0.043/100) + ((78,000 - 46,300) \times 0.041/100) = 6 + 2.8 + 12.126 + 12.997 = 33.923$$

☆2025年人口73,818人試算では 32.208人  
市民2.3千人/専任職員1人  
☆2035年人口63,428人試算では 27.948人  
市民2.3千人/専任職員1人

1989年1月 確定公表 2004年3月 改訂  
日本図書館協会図書館政策特別委員会

それぞれの自治体において早急に達成されるべき数値基準  
舞鶴市立図書館基本計画 策定準備部会参考資料として試算

◇コメント

※図書館政策重視の度合いによって、自治体が掛ける歳費と体制は二極化しつつあり、その図書館政策成果も二極化している。

※図書館政策重視の自治体では図書館ネットワークの施設群の総面積は、左記の基準値を大きく超え、中央館の再整備にあたり、人口規模には無関係に、基準が無意味であるかのように格段に大きな施設を造っている。

人口同規模の中央図書館近例では、開架規模/中央館面積

- ・安城市：34.0万冊/6810㎡
  - ・日進市：19.8万冊/6100㎡
  - ・南相馬：28.2万冊/5400㎡
  - ・東松山：15.8万冊/5210㎡
  - ・犬山市：14.8万冊/4960㎡
  - ・君津市：33.6万冊/4900㎡
  - ・八千代：13.8万冊/4860㎡
  - ・守山市：20.7万冊/4170㎡
  - ・田原市：31.3万冊/3970㎡
  - ・大府市：24.9万冊/3650㎡
  - ・塩尻市：20.1万冊/3290㎡
- 塩尻市図書館+市民交流センター全体は11890㎡  
(開架規模は公開書庫含む)

※図書館政策投資の成果は一義的には貸出し冊数といわれてきた。そして、貸出し数が資料費増減と相関していることが、統計研究で明らかになり、その最低基準を、左の計算式で明らかにしている。

舞鶴市立図書館では、年間に、4600万円の資料費と2.5万円の新しい資料補充が必要であると算出されている。

レファレンスや多様な図書館の利用への展開が、資料提供から生じる市民からの信頼に始まることも、先例の証明するところとなっている。

※現状の図書館運営では、(奉仕対象人口) / (専任職員+非正規雇用職員) というチーム体制で必要人員を確保している。

※舞鶴市HP人口動向分析では、図書館再編完了の2025年推計では73,818人に減少している。基準値試算は将来縮小後人口値ではどうなるか?という意見も行政WGよりあり、2035年減少人口の計算値とともに☆印で併記した。

◎これに対する審議会意見は①未確定な人口縮小を前提とする検討への異議、②専門性を発揮できる開架規模(30万冊論)を担保する計画の重要性が再度強調された。

## 2-4-① 図書館サービスの到達目標を想定する

### □舞鶴市の図書館はどのようなレベルの図書館サービスをめざすか

市民に必要なされる図書館サービスを現実のものにするには、豊富な資料、優れた職員、好ましい施設、そして必要な経費の4要素が重要なことが、先進他市の研究でわかります。

これらの、資料、職員、施設、そして予算をどう計画するかは、どのようなサービスを到達目標とするかによって決まります。それは「図書館サービスの到達指標」と呼ばれ、それぞれの自治体が、住民の要望、まちの将来を考えながら策定しています。

そのための予測に必要なのは「市民がどのくらい資料を求めて利用するか」を仮定することで、まず本の「市民一人当たり年間貸出の数値」が基本となります。

### ① どのくらいの本・資料が貸し出されるか

舞鶴市民は、図書館をどのくらい利用するようになるでしょうか。その仮説は、

- ・新鮮で役に立つ資料が、豊富に用意されているか
- ・資料・情報に詳しい司書がいて、親切に役に立つ案内をしてくれるか
- ・施設は入りやすく、使いやすく、ゆとりをもって作られているか
- ・図書館の位置は行きやすいところか、駐車場や駐輪場が十分に用意されているか
- ・図書館サービス網は形成されているか、遠い方々につながっているか

というサービスの基盤構造によって、左右されることは言うまでもありません。

なかでも大切なのが、どこに住んでいる市民でも同じように資料を利用できる「図書館サービス網が確立していること」と「資料・職員の状態」です。その条件が十分満たされると、一般的に言って市民の3人に1人がまず本を借りる利用者であり、やがてサービスが拡大浸透するにもなってそれが50%となり、超えていきます。これは活発なサービスをしている公立図書館の実績に照らして、十分可能な目標であることは自明なところです。

舞鶴市の図書館統計では、現在、市民1人当たりの貸出冊数は3.70冊ですが、このたびの計画では、他の進んだ自治体の現在を目標に別表の「利用予測」を立てました。

図書館の貸出利用者が1ヶ月に何冊図書館の本を借りているかは、全国的にはほぼ共通していて、年に20～24冊（大人も子どもも合わせた平均）というのが一般的です。これを舞鶴市の計画では、登録者1人当たりの貸出冊数を15～16冊としてみました。そして、将来の人口の伸長を安全側に合わせて利用の到達目標を立てました。

- ・当初目標値：貸出密度の全国平均値 5.5冊を、開館5年程度で超えたいとします。
- ・中期目標値：貸出密度の先進図書館達成値に、開館10年程度で到達したいものです。

	近い将来 5年後	将来 10年後
①人口	78,000人	
②人口（市民）1人当たり貸出冊数	現状×1.8倍 <b>6.5冊</b>	現状×2.7倍 <b>10冊</b>
③個人貸出登録者数	登録率 <b>50%</b> 39,000人	登録率 <b>65%</b> 50,700人
④年間貸出冊数	総数	780,000冊
	登録者1人当たり	15.4冊
⑤必要な開架貸出図書冊数	開架 <b>17万冊</b>	開架系 <b>27万冊</b>
	169,000冊 (3.0回転)	260,000冊 (3.0回転)
⑥必要な年間購入冊数	25,000冊/年 開架資料 BM資料(7年更新)	28,300冊/年 開架資料 BM資料(7年更新)
⑦貸出登録者の年間来館.総数	608,000人/年	791,000人/年
⑧年間延来館者.総数	668,800人/年	870,100人/年
⑨1日当たり全市の来館者数 (年間開館日数280日)	平日	2,756人/日
	土・日	5,512人/日
⑩中心図書館への来館者総数 (全市の図書館利用者の70%と想定)	平日	1,632人/日
	土・日	3,263人/日

	全館		東西館のみ		全館 貸出者当り		市民1人当り	
	総人口	延貸出者数	登録者数	登録率	貸出冊数	冊/人	貸出密度	
2019年令和1年	79,886人	101,619人	30,033人	(37.6%)	354,775冊	3.5冊/人		
2020年令和2年	78,911人	79,947人	29,060人		293,015冊	冊/人		
	(市内)	79,040人	28,675人	<b>(36.3%)</b>	291,691冊	3.69冊/人	<b>3.70冊/市民</b>	
	(市外)	907人	385人		1,324冊	冊/人		

- ※仮説策定の順序は、
- ①個人貸出登録率の目標設定
  - ②貸出登録者の年間貸出冊数の目標設定
  - ③貸出から開架資料数の設定
  - ④必要な開架資料規模の設定
  - ⑤開架系環境の規模面積算定
  - ⑥準開架、閉架、BM書庫の設定と組み立ててゆきます。

※サービスの指標としては、量の成長が質の深化の前段に認められると先例研究から知られている。量の面としては、登録者数、レファレンス数ほかがあるが、貸出冊数が、比較検証する指標として有効であると考えられてきた。

※広域な市域を有する自治体の図書館計画では、

- ・学校図書館の充実（人配置と資料充実）と公共図書館との連携が、全市登録率や貸出密度など「サービス指標」を押し上げることが知られている。
- ・君津市では、BMが保育園や小学校を巡回（夏休みは学童に切替え）して、7～12歳の登録率は100%。中高生や20代のほとんどにBMや中央館の利用経験があり、市内の好むと誇れる場所アンケートに「図書館が上位ランクインした」という。

### ※舞鶴市の図書館の現状

- ①人口は令和3年の78000人とし最小人口値が継続すると仮定。
- ②は 3.70冊/市民1人.年間  
小中学校児童生徒の登録利用、BMによる遠隔地利用者の開拓で2倍そして3倍にしてゆく。
- ③は 28,675人、登録率36.3%
- ④は 291,691冊、(令和2年度)

### ※計画表で

- ⑥は 開架の1/7で 24,300冊  
小中学校支援、BM資料で +1,000～3,000冊/年
- ⑦は 次頁の論法試算による。
- ⑧は 通常⑦の1.3倍とするが、少なめに1.1倍とした。
- ⑨⑩は 次頁の文章試算の1.1倍となっている。

※図書館では、開架図書の他に基本的な参考図書、地域・行政資料が必要となる。左開架冊数にこれらを加算して合計の開架冊数規模を試算する。

- ※世帯当たり人数：2.32人(R1) 2.30人(R2)
- ※(R1)の人数と冊数は市外を含むので貸出密度は概数
- ※(R2)延べ貸出者数は市外含みなので実質貸出冊数は不明。

② どのくらいの来館者がやってくるか

次に、どのくらいの市民が図書館に来館するかを試算します。

本を借りるために登録して貸出カードを受ける市民は、人口を78,000人として39,000人～50,700人ですが、これらの人たちは、平均月に1.3回（地域のサービス・ポイント含む）へ出かけて来ると考えます。1年で延べ61～79万人です。1日の来館者は280日開館として

$$61 \sim 79 \text{万人} \div 280 \text{日 (年間開館日数)} \approx 2,173 \sim 2,825 \text{人/日}$$

$$2,173 \sim 2,825 \text{人/日} \times 6 \text{日} = 13,038 \sim 16,950 \text{人/週}$$

本を借りる全市民は、週に13,038～16,950人と予想されます。土・日の休日には、普段の2倍以上になることが統計からみて分かっていますから、平日4日開館の1日あたりでは1,630～2,120人となり、休日にはその2倍の3,260～4,240人となる計算です。中央図書館への1日の来館者予想人数は、この数字の70%であろうと予想しています。

もちろんこの数字は、さきに述べたように市民の望む、役に立つ図書館サービスが十分に提供されることと、図書館サービス網がしっかり形成されていて、どこに住んでいる市民も等しく図書館サービスを受けられるようになっていることを前提にしています。また、小中学校図書館が充実して、直接間接に公共図書館が応援できている状況を考えています。

そしてこれは借りる市民の数で、このほかに、本は借りないけれども図書館に来るといふ利用者は、本を借りる人の2分の1、少ないところでも3分の1になっています。舞鶴市の場合控えめに見て1.1倍とすると、市民の図書館利用予測は「表1」のようになります。

また、この利用を支える資料についても数値を出してみます。

2-4-② 必要な開架や収蔵資料の整備目標を想定する

目標とする貸出冊数は、当初の50万→78万冊ですが、この貸出を支えるために開架図書がどれくらい必要かは、<開架図書が何回転して貸し出されるか>から算出します。これまでの統計の結果は、開館当初は開架図書も新しいので5～6回転しますが、やがて一般的には3～4回転程度となります。つまり約50万冊の貸出を支えるには、17万冊程度の本が開架室に必要なってくるのです。

また、これらの開架図書を新鮮で魅力のある状態に保つためには、少なくとも、毎年1/5～1/7程度の新規購入図書が必要となります。そして、開架図書としての役目を終えたものは、これまでの図書館ではすべて閉架書庫に収めるのが一般でした。舞鶴市では、この開架からはずした図書の内から、頻度は低いがまだ当分市民の利用があると思われるものを<準開架資料>として、さらに5～10年の間、市民の利用しやすいスペースに配架することを考えます。その規模は10万冊とし利用拡大に対応します。

そこで今回の計画は、近い将来の利用に対応できるように、新中央図書館の開架資料数は「表2」のように17万冊、さらに全市的なサービスに3.6万冊と考えました。

※図書館サービス施策の投資対効果を説明する形が米国にあり、日本でも使われてきた。図書館で本を無料で借りられる利益に着目の論法。調べレファレンスや、思いがけない発見や出会い、時間と場の享受などコスト換算できない効用も大きいのだが。

※施策の投資対効果の検証

舞鶴市民は一年間に自分で買わずに51→78万冊の本を読めるので家計支出を節約できることになる。  
1,700円(平均単価)×51万冊=8.67億円  
1,700円(平均単価)×78万冊=13.3億円  
・図書館歳費(現状3620万円)を、3倍の10,860万円に増額を仮定で、差益は7.58億円→12.2億円となる。

・現状貸出257,800冊で4.38億円。差益は、4.02億円(市民1人5,153円)  
・将来の投資対効果は上記試算で市民1人当たりへの還元は9,718円→15,640円/市民となる。  
・舞鶴市の平均世帯人数2.33人から一世帯当たりへの還元は22,643円→36,441円/世帯となる。

・舞鶴市民の新図書館への投資は、図書館歳費を3倍に増額しても、市民への利益還元が、現状の1.88倍→3倍に増益することがわかる。

・更に、毎年の資料費は消費されずに資料群に形を変え、次世代の市民に向けた「積立貯金」のように財産として蓄積される。

表2 <資料計画の目標>		舞鶴市新中央図書館 想定冊数(案)	<参考>人口同規模の先進図書館基本計画による資料計画 ※明朝：基本計画冊数 ゴチ：現在の蔵書数					
			君津市立中央図書館	塩尻市立中央図書館	南相馬市立中央図書館			
開架 架 書 庫	一般・青少年	120,000冊	117,000冊	150,200冊 YA 5,500冊	87,000冊	開架+閉架蔵書 292,238冊	80,600冊	開架+閉架蔵書 211,200冊
	児童	30,000冊	21,000冊	36,100冊	40,000冊	90,256冊 紙芝居2,761点	20,000冊	59,500冊 紙芝居2,363点
	参考図書	5,000冊	10,000冊	1,900冊	ビジネス10,000冊 外国語 7,000冊	30,486冊	5,000冊	3,235冊
	地域・行政資料	10,000冊	20,000冊	17,500冊	郷土資料10,000冊 古田文庫 7,000冊	25,946冊	20,000冊	12,660冊
	視聴覚資料	10,000点	20000タイトル	10,300点	12,000冊	DVD 3885点 AV 9271点	23,000タイトル	14,266点
	電子資料	相当数	コミック 3,000冊	コミック 700冊	相当数		相当数	
	新聞	30紙		252紙		15紙	30紙	地図 253点 玩具 362点 絵画 283点
	雑誌	400誌		5,858冊		400誌	400誌	雑誌 307誌 25,198冊
	開架小計	開架系 <170,000冊>	171,000冊	222,200冊	171,000冊	上記冊数が 開架開架冊数	150,000冊	上記冊数が 開架開架冊数
	準開架	26万冊 <100,000冊>	94,000冊	83,500冊	63,000冊		106,000冊	
閉架 冊 数	地域・学校・施設 などへのサービス	40,000冊 4,000冊 <44,000冊>	5,000冊	5,000冊	10,000冊		35,000冊	
	閉架書庫	100,000～200,000冊	242,000冊 収蔵庫 28,000冊	110,000冊	66,000冊		300,000冊 整理 7,000冊	4,300冊
	小計	144,000～244,000冊	275,000冊	115,000冊	200,000冊		342,000冊	
総計	414,000～514,000冊	540,000冊 (2020年見直し) 蔵書50.8 開架38.5万冊	420,700冊	434,000冊	411,201冊	598,000冊	371,900冊	
活動現況			○予約38700件/年○相談8380件/年 ○貸出94.8万冊○貸出密度10.73冊 ○登録率79.5%○人口8.8万人(2013)					
図書館システム・資料費			○予約115929件/年○相談9361件/年 ○貸出68.0万冊○貸出密度9.90冊 ○登録率46.3%○人口6.7万人(2020) ○本館+分館支所6+BMs133(2020) ○図書館歳費1.19円/冊・受入12,614冊/年 中央館資料費4055万円・受入10,821冊/年					

◆ 類似規模の自治体で参考となる中央図書館の資料構成の計画（参考資料）

□類似規模の中央図書館立ち上げに学ぶ資料構成の特色と購入準備

最近15年ほどに開館や計画準備のある、類似規模の自治体の中央館計画の資料計画では、①開架資料世界の大型化、②再整備に当たって、新聞雑誌・電子資料・視聴覚資料などへの重点化が見られ、基本計画に規模方針が示されています。また、新刊化や専門書の資料購入については、開館前の3カ年程をかけ、年次毎に再探索をして開館準備をしています。

	浦安市立 中央図書館  ※浦安市概要 平成29年度より	調布市立 中央図書館  ※平成26年度版数字 で見る図書館活動 -概要と統計-より	南相馬市立 中央図書館  ※(仮称)南相馬市新 図書館及び複合施 設基本設計 より	土浦市立図書館  ※土浦市新図書館 施設整備 コンセプトより	新小牧市立 図書館  ※新小牧市立 図書館の 建設方針より	多摩市立 新中央図書館  基本計画検討資料(案)
〈開架冊数〉  ・一般成人 ・参考図書 ・地域資料 ・行政資料 ・障がい者 ・視聴覚資料 ・外国語資料 ・子ども資料 ・YA ティーンズ ・新聞・雑誌 ・地図 ・オンライン データベース	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般図書 645,972冊</li> <li>児童書 102,170冊</li> <li>特殊資料(全市) 参考資料 13,932冊</li> <li>地域資料 23,639冊</li> <li>外国語資料 25,430冊</li> <li>新聞 43紙</li> <li>雑誌 408誌</li> <li>視聴覚資料 22,690点</li> <li>映像資料(DVD) 1,512点(全市)</li> <li>地図(全市) 2,344点</li> </ul> <p>(※以上、 開架+閉架冊数)</p> <p>※年間受入冊数 25,500冊</p> <p>(収容力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人図書 612,404冊</li> <li>外国語図書 4,607冊</li> <li>児童図書 130,804冊</li> <li>外国語 児童図書 2,527冊</li> <li>地域資料 45,737冊</li> <li>映画資料 28,718点</li> <li>視聴覚資料 18,950点</li> </ul> <p>(※以上、 開架+閉架冊数)</p> <p>多摩市に 中央図書館を つくる会ニュース (収容力)見学記より</p>	<p>[成人部門]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成人開架 80,000冊</li> <li>参考資料 10,000冊</li> <li>地域行政 14,000冊</li> <li>視聴覚資料 13,000タイトル</li> <li>雑誌 400誌</li> <li>新聞 30紙</li> </ul> <p>[児童部門]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども開架 20,000冊</li> <li>紙芝居 500タイトル</li> <li>視聴覚資料 1,000タイトル</li> </ul> <p>[青少年部門]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年開架 11,000冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般図書 73,000冊</li> <li>文庫本 31,000冊</li> <li>児童書 37,000冊</li> <li>地域資料 13,000冊</li> <li>参考図書 10,000冊</li> <li>視覚障害者 用資料 2,600点</li> <li>外国語資料 9,000冊</li> <li>音声資料(CD) 5,000点</li> <li>映像資料(DVD) 5,000点</li> <li>新聞 24紙</li> <li>雑誌 320誌</li> </ul>	<p>[地域館機能]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般図書 参考図書 46,000冊</li> <li>児童図書 32,000冊</li> <li>ティーンズ 7,000冊</li> <li>雑誌 150種</li> <li>新聞 10紙</li> <li>視聴覚資料 18,000点</li> <li>障がい者 サービス 2,000点</li> </ul> <p>[中央館機能]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門図書 50,000冊</li> <li>地域行政 11,000冊</li> <li>多言語図書 15,000冊</li> <li>雑誌 150種</li> <li>新聞 30紙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般成人 開館時:142,000冊 収容力:180,000冊 (多文化資料・漫画を含む)</li> <li>参考図書 開館時: 6,000冊 収容力: 12,000冊</li> <li>地域行政資料 開館時: 15,000冊 収容力: 18,000冊</li> <li>児童書 開館時: 30,000冊 収容力: 40,000冊</li> <li>ティーンズ 開館時: 4,000冊 収容力: 8,000冊</li> <li>障がい者 サービス資料 開館時: 3,000冊 収容力: 5,000冊</li> <li>新聞・雑誌 開館時:200タイトル 20紙 収容力:300タイトル 30紙</li> </ul> <p>※(視聴覚資料) (開館時: 6,000点) (収容力: 12,000点)</p> <p>開架小計(※抜き) 開館時: <b>20万冊</b> 収容力: <b>約25万冊</b> 目標実数: <b>30万冊</b></p>
開架中計	約400,000冊	約200,000冊	135,000冊 +14,500タイトル +400誌+30紙	173,000冊 +12,600タイトル +320誌+24紙	161,000冊 +20,000点 +300種+40紙	
〈資料部門冊数〉  ・閉架書庫 ・地域奉仕部門 ・整理書架	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉架 230,000冊</li> <li>地域資料 70,000冊</li> </ul>		<p>[準開架部門]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>準開架 100,000冊</li> </ul> <p>[閉架部門]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下層階収容 100,000冊</li> <li>上層階収容 200,000冊</li> </ul> <p>[地域奉仕部門]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>35,000冊</li> </ul>	閉架収蔵能力 360,000冊	<p>[地域館機能 中央館機能]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各資料及び雑誌、新聞のバックナンバー含む 319,000冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体貸出室 地域奉仕書庫 現状 : 65,000冊 収容力: <b>30,000冊</b></li> <li>閉架書庫 開館時:130,000冊 収容力: <b>270,000冊</b></li> </ul>
閉架中計	約300,000冊	約400,000冊	435,000冊	360,000冊	319,000冊	閉架系小計 開館時:195,000冊 収容力: <b>300,000冊</b> (増設余地の検討)
中央館合計	811,143冊 +30,577点 +315誌+41紙	796,079冊 +47,668点	570,000冊 +14,500タイトル +400誌+30紙	533,000冊 +12,600タイトル +320誌+24紙	479,000冊 +20,000点 +300種+40紙	開館時:395,000冊 収容力の目標 : <b>600,000冊</b>

### 2-4-③ 舞鶴市図書館サービスの達成したい目標値

□中央図書館開館5年後、10年後にめざすサービス目標値

将来達成したい舞鶴市の図書館サービス目標値を考えます。人口同規模の先進図書館の指標と比較して、達成する為の施策の形を構想します。

	開館5年後	開館10年後
①市民1人あたりの年間貸出冊数(貸出率)	$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{人口}} = \frac{507,000 \text{ (冊)}}{78,000 \text{ (人)}} = 6.5 \text{ 冊/人・年}$ 現状 3.7冊/人・年	$\frac{780,000 \text{ (冊)}}{78,000 \text{ (人)}} = 10 \text{ 冊/人・年}$
②登録率	$\frac{\text{登録者数}}{\text{人口}} = \frac{39,000 \text{ (人)}}{78,000 \text{ (人)}} = 50 \%$ ※東図書館、西図書館の登録者 現状 35%	$\frac{50,700 \text{ (人)}}{78,000 \text{ (人)}} = 65 \%$
③登録者1人あたりの貸出冊数(実質貸出密度)	$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{登録者数}} = \frac{507,000 \text{ (冊)}}{39,000 \text{ (人)}} = 13 \text{ 冊/人・年}$ 現状 7.63冊/人・年	$\frac{780,000 \text{ (冊)}}{50,700 \text{ (人)}} = 15.4 \text{ 冊/人・年}$
④市民1人あたりの資料費	$\frac{\text{資料購入費}}{\text{人口}} = \frac{45,000,000 \text{ (円)}}{78,000 \text{ (人)}} = 577 \text{ 円/人・年}$ 現状 158円/人・年 <small>※平均単価：装備込1700円/冊 ICチップ75円込で1800円/冊想定</small>	福知山市立図書館 ……299円/人・年 京田辺市立図書館 ……322円/人・年 南相馬市立図書館 ……517円/人・年 塩尻市立図書館 ……626円/人・年 <small>『日本の図書館2020』より</small>
⑤市民1人あたりの蔵書冊数	$\frac{\text{蔵書冊数}}{\text{人口}} = \frac{270,000 \text{ (冊)}}{78,000 \text{ (人)}} = 3.46 \text{ 冊}$ 現状 3.4冊 <small>開架17万冊+閉架10万冊</small>	$\frac{470,000 \text{ (冊)}}{78,000 \text{ (人)}} = 6.03 \text{ 冊}$ <small>開架27万冊+閉架20万冊</small>
⑥蔵書回転率	$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{蔵書冊数}} = \frac{507,000 \text{ (冊)}}{270,000 \text{ (冊)}} = 1.88 \text{ 回}$ 現状 1.1回	$\frac{780,000 \text{ (冊)}}{470,000 \text{ (冊)}} = 1.66 \text{ 回}$
⑦1日あたりの平均来館(登録者)数	$\frac{\text{貸出者数}}{\text{開館日数}} = \frac{608,000 \text{ (人)}}{280 \text{ (日)}} = 2,171 \text{ 人/日}$ ※現状の東西図書館の貸出者数は、285人/日。目標値はその7.6倍。	$\frac{791,000 \text{ (人)}}{280 \text{ (日)}} = 2,825 \text{ 人/日}$ ※目標値は現状の約10倍。
⑧1日あたりの平均貸出冊数	$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{開館日数}} = \frac{507,000 \text{ (冊)}}{280 \text{ (日)}} = 1,811 \text{ 冊/日}$ ※現状の東西図書館の貸出冊数は、933冊/日。目標値はその約2倍。	$\frac{780,000 \text{ (冊)}}{280 \text{ (日)}} = 2,786 \text{ 冊/日}$ ※目標値は現状の約3倍。
⑨市民1人あたりの図書館運営費(資料費/光熱費/人件費等)	$\frac{\text{運営事業費}}{\text{人口}} = \frac{100,000,000 \text{ (円)}}{78,000 \text{ (人)}} = 1,282 \text{ 円/人}$ 現状 393円/人	福知山市立図書館 ……1,171円/人 京田辺市立図書館 ……1,228円/人 南相馬市立図書館 ……2,046円/人 塩尻市立図書館 ……2,893円/人 <small>『日本の図書館2020』より</small>

※別角度からの考察：舞鶴市78,000人×6.5冊/人・年として年間総貸出冊数は50.7万冊となる。一日貸出は1811冊/日。1人1回2.5冊借りるとして、年間貸出人数は202,800人。年間280日開館として、貸出来館は724人/日。借りずに閲覧や催事に参加の人を、貸出来館の同数とみると一日平均来館者数は1450人程度となる。  
 ・10冊/人・年ならば、1人1回2.5冊借りるとして、貸出来館は1114人/日。一日平均来館者数は2228人程度となる。